

夏木立



中川 幸子

光りから零れしものに黒き蝶

鳥鳴くや山嶺いまだ雪残り

山霧のひときは濃きが流れけり

知らぬ間に二人となりぬ十三夜

落葉掃く人の廻りに雀ゐて

坊さまが女と握手百日紅

遠きより女の声の秋意かな

秋の蚊を叩く女の小さき掌

流星や古代女人の金耳輪

藍染めの女名浮かぶ柚子湯かな

櫻かなおはやうございますと社員

芸者ゐる橋に群るるや都どり

粹筋と橋で出遇ひぬ夏柳

橋をゆくひと羅を吹かれをり

海棠や浜町河岸に雨上る

冬服やけふ会ふひとを想ひをり

田の枯れに紛るる色のなにもなし

さらさらと春のあられの音すなり

秋麗のひとの後を歩きをり

あけぼのの糸瓜の花のうす明り

長閑さや猫にも利き手あるらしく

雪国の雪の日に生れ「ゆき」と言ふ

墓なかに可愛ゆき奴もをり

みな同じ方むいてをりゆりかもめ

夏衣少女の脚のまぶしさよ

夏空やエンパイアステートビル
の街

アラスカの山に雪ある
白夜かな

カナダ上空ゼロ六便は
明易く

宵月やアメリカで見る
月も月

川の面にせり出して咲く
櫻かな

葛飾は八重山吹の盛りかな

柘榴咲く降らんばかりの真間の里

黒潮にぽつんと置かれ夏の島

神域のよく掃かれあり夏木立

略歴

中川二毫子（なかがわ・にごうし）本名 鐵藏

大正13年1月26日生まれ

石塚友二氏の指導で東京柳橋の私的句会に約三十年。

氏没後、縁あって

平成 8 年 小澤克己主宰の「遠嶺」に入会。

「鶴」在籍時 句集「花衣」出版。（平成8年5月）

平成 9 年 「遠嶺」同人

平成 12年5月 俳人協会会員

現在「遠嶺」同人（「高嶺集」）・俳人協会会員。

句 集 夏木立 本阿弥現代俳句シリーズ

2000年7月25日 初版

定価：本体 2800（税別）

著 者 中川二毫子

発行者 本阿弥秀雄

発行所 本阿弥書店

B 6 版 二句組

序 小澤克己